



岡山県農林水産部畜産課
課長 柴田 範彦

年頭の挨拶

あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられたことと、心からお喜びを申し上げます。また、平素より畜産関係者の皆様には本県の畜産行政の推進について特段のご理解とご支援をいただき、心からお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、アメリカのサブプライム問題に端を発する世界的金融危機の影響等、政治経済は最後まで混迷した年でありました。

また、食品の産地偽装や事故米の不正転売、更には、中国産乳製品へのメラミン混入の問題など、消費者の国産品への期待が高まる中、我々農林水産業に携わる者にとって、改めて「食の安全・安心」の重要性を考えさせられた1年であったと思います。

一方、畜産をめぐる情勢をみますと、国際的には高病原性鳥インフルエンザ等の海外悪性伝染病の発生、WTO農業交渉の成り行き等、今後の動向については予断が許せない状況となっています。

また、国内では、高騰を続けてきた配合飼料価格の落ち着きや原油価格の下落に加え、本年3月からは、乳価が再値上げされる等、明るい兆しも見えて参りましたが、景気の悪化等による国産畜産物の消費の減少、販売価格の低迷等から、畜産農家の経営は依然、深刻なものとなっています。

このため、国では昨年2月及び6月に畜産・酪農緊急対策が実施され、更に牛肉卸売価格や肉用子牛価格が低迷していることを受け、11月にも緊急の畜産経営安定対策が実施されたところです。

県といたしましては、食の安全性の確保や飼

料自給率の向上を重点施策と位置付け、稲・ホムクロップサイレージ等の生産拡大と広域流通の促進、稲・麦わら、食品副産物等の未利用資源の活用など自給飼料増産対策に努めるとともに、担い手の確保、生産性向上対策、家畜伝染病の侵入及びまん延の防止対策等の施策を総合的に推進することといたしております。

特に高病原性鳥インフルエンザについては、昨年、東北地方で野鳥への感染が確認され、県内での発生が危惧されることから、防疫演習等を開催し、危機管理意識の高揚に努めているところであり、皆様には発生防止に万全を期して頂きたいと存じます。また環境保全対策では、引き続き家畜排せつ物法による、適正な管理を基本に、肥料高騰への対応も睨みながら、耕種分野でのたい肥の利用拡大、ペレット等の利用性の高い堆肥生産技術の普及など、資源循環型畜産に向けた取り組みを行うこととしております。

さらに、県産畜産物の消費拡大を図るとともに、生産コストに見合う、畜産物の小売価格となるよう関係者の皆様方とともに、消費者等の理解醸成に努めてまいりたいと考えております。

御承知のとおり、県の財政構造改革プランがとりまとめられ、本年から事業の抜本的見直しが行なわれることとなっておりますが、効率的な事業推進に努め、職員一丸となって、農家の経営安定に取り組むこととしております。

終わりにあたり、本年の皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げますとともに、畜産行政に対しましてなお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。年頭のあいさつといたします。